

1. 2018 年度の日野市における環境への取組のトピックス

2018 年度に実施された環境への取り組みの中から、つぎの 4 項目を注目すべきトピックスとして取り上げました。

(1) カワセミハウス協議会環境分科会スタート

カワセミハウス協議会環境分科会（以下、環境分科会）は、カワセミハウスの旧環境情報センターとしての機能を引き継ぎ、カワセミハウスを拠点とした環境活動を活性化すること、さらには多面的な機能を持つカワセミハウスを活用することによるさらなる発展を期待し、カワセミハウス協議会の有志により 2018 年 2 月に立ち上がりました。構成メンバーは、環境団体だけでなく、子育てや地域活動にかかわる団体、大学などで、2018 年度は 19 団体が登録メンバーとなって活動をスタートしました。

活動の最初の年となる 2018 年度は、カワセミハウスや環境分科会の PR をする目的もあり、環境分科会の主催で様々なイベントを実施しました。また、イベントを通じて市内環境団体とのつながりを作る、希望者には環境分科会（カワセミハウス）から情報発信をするなど、環境情報センター機能をサポートする活動も展開しているところです。

ここでは、2018 年度のイベント（第 7 章（P.130）参照）のうち 3 つをご紹介します。

●浅川ネイチャースタディ 2018. 8. 26

親子対象に、浅川で水生昆虫の観察と毛ばり釣り体験をしました。きれいな婚姻色のオイカワを釣りあげた子供たちからは歓声が上がり、浅川の生きものの豊かさを体感できたのではと思います。



●見て聞いて知ろう・くろかわシリーズ「黒川清流公園のむかしからみらいへ」 2019. 2. 2

黒川清流公園周辺で育った講師より、昔のこの地域のくらし、昭和 30 年代の多摩平団地建設による環境の変化などについてお話いただきました。子供の頃に水路で遊んだ思い出や出会った生きもの、それらが開発により失われていったというお話を聞き、現在に残されたこの湧水のある環境の大切さについて改めて考える場となりました。



●つんで、つくって、たべよう！よもぎだんご 2019. 3. 21

カワセミハウス周辺でヨモギを摘み、よもぎだんごを作って食べました。ヨモギと一緒に食べられる野草も摘んで試食。摘むところからの体験が良かったと好評でした。



1. 2018 年度の日野市における環境への取組のトピックス

(2) アートディレクション事業（アーティストと子どもたちとのコラボ）

◇多摩の木でつくる みんなの壁画プロジェクト

日野市出身で気鋭の版画家蟹江杏さんと公募により集まった市内中高学生 6 名との協働により、2017 年度事業において、創作した絵本「ぼくのまちにはもりがある」や黒川の身近な自然をテーマに 9 回のワークショップを重ね、多摩産材の木材をキャンバスにウッドバーナー（電熱器）を用いてアート作品「壁画」を創作しました。また、カワセミハウス



入口の円形サイン（看板）の中央部分のスペースには、絵本「ぼくのまちにはもりがある」のキャラクターである「こもれびくん」と「かわせみ」をシール化して設置しました。この設置をもってカワセミハウスのシンボルである円形サインが完成しました。

次世代に伝えたい日野市の身近な自然環境をテーマに、日野市やハウスのイメージを具現化した円形サインや壁画作品を次世代に伝えていくことにより、日野市のもつ身近な自然環境の大切さと、日野市らしい多様な主体間によるコラボレーションの素晴らしさを広く市内外に発信していきます。

① 壁画作品名 「こもれびの中で」

多摩産材のスギとヒノキの板を用いて下絵を描き、ウッドバーナーを用いて絵付けと色付けを行い、最後にカワセミハウス館内の梁（L=7.1m×H=0.5m）に、ネジや接着剤を用いて設置し 1 枚の壁画を完成させました。

◎大きさ たて 99.3cm × よこ 228.9cm

◎材料 多摩産材板 13 枚

（すぎ板 6 枚、ひのき板 7 枚）



② 発表会

完成した作品のお披露目会として、地域の方を中心に発表会を開催（出席者 53 名）

◎日時 2019 年 3 月 2 日（土）14：00～14：50

◎会場 日野市立カワセミハウス

◎内容 制作者全員による作品オープン後、壁画創作までの経過報告、市長あいさつ及び蟹江杏さんと参加者と市長を交えた楽しい対談等で大いに盛り上がりました。



◇アートディレクション事業から生まれた新たな連携事業

① 新宿クリエイターズ・フェスタ 2018（こどもアート）

新宿区が主催する「新宿クリエイターズ・フェスタ 2018（こどもアートデー！・こどもアート展）」へ出展し、先に紹介した創作絵本「ぼくのまちにはもりがある」の出版 PR とシティプロモーションを行ないました。これは、この事業とも関連の深い絵本の制作

1. 2018年度の日野市における環境への取組のトピックス

者の蟹江杏さんの橋渡しにより、新宿区との新たなコラボレーションが実現したものです。この出展を機に、中央線・京王線沿線でつながる日野市と新宿区がアートでもつながることができました。

「こどもアートデー！」当日は日野市長も会場を訪問され、新宿区への友好の気持ちを込め、新宿区長（新宿区）へ絵本を寄贈しました。

◎期間 2018年8月1日（水）～8月12日（日）

「こどもアートデー！」は8月7日（火）

◎場所 全労済ホール／スペース・ゼロ



② 新宿ルミネ2のスペースを利用した絵本PR

新宿ルミネ2の1階と2階とをつなぐエスカレーターサイド部を利用し、絵本のキャラクター等をシール化して貼り付け、来客者へ絵本のPRを実施しました。また、エスカレーター横階段壁面のデジタルサイネージ（3基）を借用し、絵本のPRを実施しました。

◎期間 2018年8月9日（木）～8月22日（水）

◎会場 新宿ルミネ2（駅東口）



③ キネコ国際映画祭（日本最大規模の子どもの国際映画祭）

映画祭開催期間中の2日間においてブースを出展し、絵本「ぼくのまちにはもりがある」のPRと絵本を通した日野市プロモーションを行ないました。出展ブースでは、蟹江杏さんを中心としたワークショップ（ガラスペイント）のほか、ステージを通して、絵本のPRとシティプロモーションを行ないました。

◎期間 2018年11月22日（木）～11月26日（月）

※日野市出展日 2018年11月24日（土）、11月25日（日）

◎場所 世田谷区二子玉川駅周辺、iTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズほか



1. 2018 年度の日野市における環境への取組のトピックス

(3) 黒川マイスター講座スタート

黒川マイスター講座は、日野市緑と清流課と日野市立カワセミハウスとの共催により、東豊田保全地域及び黒川清流公園を活動の拠点として、その恵まれた環境を学び、実際の保全管理活動を通じて身近な自然環境の大切さを学ぶことにより、緑と清流の保全リーダーの育成と地域づくりへの積極的な参画を促すことを目的として、2018 年度から実施しています。

第 1 期黒川マイスター講座は、受講生 19 名であり、年 11 回の講座を実施しました。講座には、黒川の植物や歴史・地形・生物と、幅広い内容が盛り込まれており、座学だけではなく、実習も併せて行ないました。

11 回目の講義を終え、8 回以上の出席をした 14 名の受講生には、日野市長より、黒川マイスター(Basic)の認定証とバッジが授与されました。



(4) 東豊田緑地保全地域（黒川清流公園）における湧水白濁及び枯渇の発生について

日野市の身近な自然環境を象徴する東豊田緑地保全地域（黒川清流公園）において、湧水の白濁、枯渇があったことについて、その経過等を報告します。

2018年7月3日から5日までの3日間で黒川清流公園西端にある「あずまや池」の水が白濁しているとの通報を受け現地確認を行ない、白濁している状況を確認しました。7月6日には一旦白濁が見られなくなりましたが、経過観察を継続しました。

その後、7月14日と17日に同地域内の湧水量減少の通報を受け、観察を継続した結果当該箇所からの湧水量の減少を確認しました。

続いて7月21日には、黒川清流公園の中央付近に位置する「わきみず池」が白濁しました。これまでの経緯と周辺観察から、東豊田緑地保全地域と隣接する台地部（湧水の涵養域であり水道でもある。）で行なわれているマンション建設工事による影響が考えられたため、業者との協議の結果くい打ちを中止しました。さらに7月22日には湧水量が減少していた箇所が完全に枯渇しているのを確認し、7月25日にこれまでの白濁事故に関する報道発表を行ないました。

その後も原因究明のための水質検査等を実施し、マンション建設事業者がくい打ち工事に使用したベントナイトが原因であることが明らかとなり、9月6日に2回目の報道発表を行ないました。

今後同様な事故などを起こさないよう、湧水の保全と再発防止策を検討するため、11月に自然環境や土木工学の専門家を交えた東豊田緑地保全地域（黒川清流公園）湧水対策検討委員会を設置し、徹底的な議論をしていただきました。

委員会では、すでに掘ってしまったくい打ち用の穴の埋戻しの検討、湧水白濁・枯渇の原因究明、同再発防止策の検討、基礎工法の改善等の検討を行ない、市長に報告書が提出されました。

今後提出いただいた報告書をもとに、市も真摯に反省し、二度と同様な事故などが起きないように事業者と協議しながら、身近で大切な環境保全に努めてまいります。